

ウッドブリース外断熱工法 クラスPB施工要領

施工手順

i スタート断熱材の設置

断熱材の張り始めは、墨出しをして、スタート断熱材が水平になるように、同項 ii の要領で断熱材を躯体に圧着して張り付ける。

その直後、水平を保つために同項 iii の要領でアンカーを仮留め(オプション)する。

ii 断熱材の圧着張り

汚れ等を入念に除去し、ビーズ法ポリスチレン発泡板をアクリル系樹脂モルタルで圧着張りする。

アクリル系樹脂モルタルの作製

ウッドブリース ベースコートをポルトラントセメントとを重量で計量し 1:1の比率で攪拌する。

固さは、練り上げ、へらできると、ゆっくりともどる感じで若干清水を加えて調整する。

60分以内に使用できる量を混練りする。

* 1:1の混合比は、嵩に因る管理とし、使用済みの缶及び袋により確認を行う。



ポルトラントセメント混入



ベースコートの攪拌

断熱材の圧着張り上の注意

- ① 断熱材の保管は、湿気、直射日光を避け、水平な場所に保管する。
- ② 断熱材裏面を混練りしたアクリル系樹脂モルタルで団子張りとノッチング張りを併用して接着面積が全接着面積の60%以上となるようにRC躯体へ圧着する。
ビーズ法ポリスチレン発泡板を突合せで圧着張りする。
- ③ 断熱間に3mm以上の隙間が生じた場合、樹脂モルタルの侵入を防止するために断熱材の断片又は発泡ウレタンで補修する。
- ④ 断熱材は水平方向に100mm以上ずらした千鳥張りとする。
- ⑤ 大角は下げ振りを降ろして垂直をだし施工する。
大壁は、下げ振り又は定規棒を1m間隔であてて不陸を整える。
- ⑥ 開口部等は断熱材の縦横寸法を最低200mm確保して断熱材を張り付ける。
開口部の角は断熱材をL型にて欠き込み加工をして張り付ける。
- ⑦ 予期せぬ断熱材の歪み、下地の不離がある場合、アンカーを仮打ちし、密着性を確保する。
- ⑧ 断熱材に均等に概ね掌で1枚につき5~6箇所押える。また、定木等を併用の上不陸を無くす。
- ⑨ ビーズ法ポリスチレン発泡板の圧着張り後の不陸はサンディングの上、調整する。
- ⑩ スリーブ、配管の廻りなどは防水テープ「イルモド600」で止水処理を行う。
- ⑪ 不意な雨に対してはシート養生する。



②図



③図



⑩図

養生期間は72時間とし、雨が当たらないようにする。

雨天、気温5°C以下、相対湿度80%以上の場合、養生期間を延長する。

iii アンカーの留付け(オプション)

養生後、圧着張りした断熱材中央にアンカーを留め付けをする。

φ8mmのドリルで、アンカーを最低20mm埋め込むことが出来るように下穴を開け、ハンマーでアンカーを打ち込む。このときアンカーが断熱材表面より沈み込むように注意する。
アンカーは910×910あたり1本とする。



アンカーの打ち込み

iv アクリル系樹脂モルタル(ベースコート) 塗布

断熱材全面に、ガラス繊維メッシュをアクリル系樹脂モルタルで伏せ込む。

アクリル系樹脂モルタル(ベースコート) 塗布上の注意点

- ① 先ず、ガラス繊維メッシュ#15をGLから高さ1500mmまで
アクリル系樹脂モルタルが絡むように伏せ込む。
ガラス繊維メッシュ#15の接合は突き付けとする。 } オプション
(耐衝撃仕様とする場合)
耐衝撃用#15メッシュ施工を施工しない場合は#4メッシュを全面に伏せこむ(②の工程)
- ② 最終的に、アクリル系樹脂モルタル層が2.5+0.5mm厚程度となるように塗布し、
同時にガラス繊維メッシュ#4を全面にアクリル系樹脂モルタルが絡むように伏せ込む。
ガラス繊維メッシュ#4の継ぎ目は、垂直水平方向100mm以上、垂直水平方向100mm以上を重ね張りする。
- ③ 出隅部は、当初、メッシュ付コーナービートで補強します。
その後、ガラス繊維メッシュ#4をコーナービート角まで伏せ込む。
- ④ 開口部廻りは下記の方法で納める。
ア. 予め、断熱材にガラス繊維メッシュ#1.6をアクリル系樹脂モルタルで伏せ込んでおく。
または、メッシュ付コーナービートで断熱材小口を補強した断熱材パーツを用意したものを軸体に張り付けます。
イ. コーナービートをベースコートで圧着し、ガラス繊維メッシュ#4をコーナービート角まで伏せ込む。
- ⑤ 軸体の伸縮目地上部は下記の方法で納める。
ア. 予め、断熱材にガラス繊維メッシュ#1.6をアクリル系樹脂モルタルで伏せ込んでおく。
イ. コーナービートをベースコートで圧着し、ガラス繊維メッシュ#4をコーナービート角まで伏せ込む。
- ⑥ 大角は下げ振りを降ろして垂直をだし、コーナービートで補強する。
- ⑦ ダキは水平、垂直に留意し、三方をコーナービートで補強する。



養生は72時間とする。天候、気温、湿度により、養生期間を判断する。

v シーリング工事(元請け施工)

アクリル系樹脂モルタル(ベースコート) の養生をした後、シーリング箇所に専用プライマーを塗布する。

- ①開口部廻り 目地 10-15mm
②異物との取り合い 目地 10-16mm
③軸体の可動目地上 目地 10-17mm

シーリング深さは10mm以上とする。

バックアップ材を充填しウレタンシール(可塑剤不使用タイプ)で上記に必要なシーリング工事をする。

vi 仕上げ材の塗布

施工要領書を参照。

使用材料

i 断熱ファスナー /ヒルティー IDP (オプション)

全素材がポリプロピレン製。

例) IDP-SF 2/4 全長70mm 押さえ部 ϕ 35mm 穿孔径 ϕ 8mm せん断性能 180N/本

ii アクリル系樹脂モルタル /ウッドブリースベースコート

水性アクリル樹脂と骨材を主成分とするペースト製品。優れた耐水性、耐アルカリ性、接着力、透湿性能を有する。

普通ポルトランドセメントと本製品を重量比1:1の割合で混練りする。攪拌機で3~5分、十分に混練する。

断熱材を本製品で団子張りとノッチング張りを併用して圧着張りを行う。

また、断熱材の表面を本製品でガラス繊維メッシュを伏せ込む。

(社)公共建築協会 建築材料・設備機材等品質性能評価事業 評価基準「ポリマーセメントモルタル」の基準を満たす。

PHIは8~9 付着強さ 4.0N/mm²(標準条件)

iii 断熱材 /ビーズ法ポリスチレンフォーム保溫板(EPS)

ビーズ法ポリスチレンフォーム保溫板(EPS)3号 JIS値を満たす。

熱伝導率 0.04W/m·K以下 密度20kg/m³以上 自己消火性 難燃

iv ガラス繊維メッシュ /ファイバーメッシュ

Eガラス繊維を編んだメッシュにアクリルコーティングを施し、耐アルカリ性能を持たせた製品。

一般部 #4(R117A101)以上 コーティング処理後145g/m²品 アクリル促進条件下 900N/50mm

断熱小口部 #1.6(R56A101)以上 コーティング処理後70g/m²品 アクリル促進条件下 350N/50mm

補強部 #4と#15(R451A101) コーティング処理後525g/m²品 アクリル促進条件下 3500N/50mm

以上の重ね張り(オプション)

v アクリルエマルジョンプライマー /ウッドブリース TPライマー

アクリルポリマーを主成分とした着色プライマー。表面を堅固にし、上面塗料との接着力を増進する。

また、本製品は仕上材として耐候性を有す。

vi アクリルエマルジョン樹脂仕上げ材 /ウッドブリース フィニッシュコート

高級アクリル・ポリマーと天然骨材の優れたコンビネーション
を主原料とし、過酷な温度差に因る外断熱材の伸縮に追従する性能と、
防水性、透湿性を兼ね備えた優れた特性を持つ。

vii パックアップ材 / 小丸棒

ポリエチレンの発泡体で、完全に独立した発泡からなりたっている。

酸・アルカリによる劣化はほとんどなし。

viii ウレタンシール材 可塑剤不使用タイプ / オートンシラー101NB

反応硬化型、可塑剤を使用していないので、ブリード現象を起こさず、塗料・樹脂モルタルに卓越した付着性がある。
目地の肉痩せが少ない。

ix 防水テープ / イモルド600

防水・圧縮加工済みの連続気泡軟質発泡ウレタン製シーリングテープ。

DIN(ドイツ工業規格)18 542のBGI(最高水準)に適合 最大風速600Paの暴風雨に耐える水密性能

x メッシュ付コーナービート

塩化ビニール製コーナー定木25x25x2mm+#4メッシュ120x120mm L=1800mm